



萱中だより

《校訓》 礼儀・自主・勤労・協同

三笠市立萱野中学校

校長 小松 明美

三笠市萱野 192 番地 TEL 2-2308

発行：平成28年10月31日〈棚号〉

「全国学力・学習状況調査」の結果について

～ すべての教科で全国平均正答率を上回る結果に！ ～

4月19日に全国の中学校3年生を対象として実施されました「全国学力・学習状況調査」の結果が報告されました。全国や全道の結果については報道機関を通じ公表されましたのでご存じのことと思います。この紙面におきましては、本校の3年生の結果の概略をお知らせいたします。

今年度の学力調査は、国語と数学です。しかし、2教科に限定されているだけではなく、その測られている学力の分野も下記に示すとおり限定されています。したがって全体の学力を測るものとなっておりませんが、子どもの学力の状況を知る客観的な資料として分析し、今後の指導に役立てていきたいと考えています。

今回の結果では、国語・数学の「主として知識（A問題）」、「主として活用（B問題）」の実施した全教科で全国平均正答率を上回る結果となりました。

学力調査から

◎言語に関する基礎的知識・技能をみる「国語A」

全体としての結果は全国平均正答率より、かなり高い結果となっています。国語科の領域ごとの全国平均正答率との比較については次の通りです。

- 「話すこと・聞くこと」…およそ5ポイント高い
- 「書くこと」…およそ10ポイント高い
- 「読むこと」…およそ5ポイント高い
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」…およそ14ポイント高い

【正答率が全国に比べ特に高かった設問の出題趣旨】

読む能力	<ul style="list-style-type: none"> ○登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する。 ○文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える。 ○奥付の特徴や役割を理解する。 ○文脈に即して漢字を正しく読む。
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> ○伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く。 ○伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く。 ○文脈に即して漢字を正しく書く。
話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> ○相手や場に合った言葉遣いなどに気を付けて話す。 ○全体と部分との関係に注意して話を構成する。 ○話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する。
言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。 ○辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む。 ○歌に表れた作者の思いを想像する。

【正答率が全国に比べ特に低かった設問の出題趣旨】

言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> ● 文脈に即して漢字を正しく読む。
-----------------	---

◎知識・技能を活用する力をみる「国語B」

全体としての結果は、全国平均正答率より高い結果となっています。国語の領域「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で全国の平均正答率を上回りました。国語科の領域ごとの全国平均正答率との比較については次の通りです。

- 「書くこと」…およそ3ポイント低い
- 「読むこと」…およそ4ポイント高い

【正答率が全国に比べ特に高かった設問の出題趣旨】	
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> ○目的に応じて必要な情報を読み取る。 ○文章の展開に即して内容を理解する。 ○目的に応じて必要な情報を読み取る。
【正答率が全国に比べ特に低かった設問の出題趣旨】	
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> ●文章の構成を捉える。
関心・意欲・態度 書く能力 読む能力	<ul style="list-style-type: none"> ●文章の構成や表現の仕方について、<u>根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く。</u>

◎数量や図形についての基礎的知識・技能をみる「数学A」

全体としての結果は全国平均正答率を大きく上回っています。全領域で9ポイント以上高く、特に「資料の活用」では35ポイントも上回る結果となっています。

- 「数と式」…およそ9ポイント高い
- 「関数」…およそ15ポイント高い
- 「図形」…およそ14ポイント高い
- 「資料の活用」…およそ35ポイント高い

【正答率が全国に比べ特に高かった設問の出題趣旨】	
数学的な技能	<ul style="list-style-type: none"> ○分数と小数の乗法の計算ができる。 ○正の数と負の数の加法の計算ができる。 ○整式の加法と減法の計算ができる。 ○不等式の意味を読み取ることができる。 ○具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式をつくることことができる。 ○2つの等号で結ばれている方程式が表す関係を読み取り、2つの二元一次方程式で表すことができる。 ○空間における直線と直線との位置関係(辺と辺とがねじれの位置にあること)を理解している。 ○ひし形について対角線が垂直に交わることを、記号を用いて表すことができる。 ○資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる。 ○具体的な事象における一次関数の関係を式に表すことができる。 ○簡単な場合について、確率を求めることができる。
数量や図形などについての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ○見取図に表された立方体の角の大きさの関係を読み取ることができる。 ○円錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい円柱の体積の1/3であることを理解している。 ○多角形の外角の和の性質を理解している。 ○三角形の合同条件を理解している。 ○証明の必要性和意味を理解している。 ○比例の関係を表す表から変化や対応の特徴を捉え、xの値に対応するyの値を求めることができる。 ○「同様に確からしい」ことの意味や、前の試行が次の試行に影響しないことを理解している。
【正答率が全国に比べ特に低かった設問の出題趣旨】	
数量や図形などについての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ●自然数の意味を理解している。 ●ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されることを理解している。 ●垂線の作図の方法について理解している。
数学的な技能	<ul style="list-style-type: none"> ●具体的な場面で数量の関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形できる。

数学的な技能	<ul style="list-style-type: none"> ●平行線や角の性質を用いて、角の大きさを求めることができる。 ●比例の式について、x の値の増加に伴う y の増加量を求めることができる。 ●一次関数のグラフから、x の変域に対応する y の変域を求めることができる。
--------	---

◎知識・技能を活用する力をみる「数学B」

全体としての結果は、全国平均正答率より、かなり高い結果となっています。また、数学の「数と式」「関数」「資料の活用」の3つの領域で全国の平均正答率を大きく上回っています。

- 「数と式」…およそ21ポイント高い
- 「関数」…およそ12ポイント高い
- 「図形」…およそ17ポイント低い
- 「資料の活用」…およそ27ポイント高い

【正答率が全国に比べ特に高かった設問の出題趣旨】	
数学的な見方や考え方	<ul style="list-style-type: none"> ○与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理することができる。 ○適切な事柄を判断し、その事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することができる。 ○資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。
【正答率が全国に比べ特に低かった設問の出題趣旨】	
数学的な技能	<ul style="list-style-type: none"> ●与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することができる。
数学的な見方や考え方	<ul style="list-style-type: none"> ●加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明することができる与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる。 ●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。 ●付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる。 ●計算の過程を振り返って考え、数当てゲームの新しい手順を完成することができる。

生活面に関する調査から

<p>【長所となる生徒の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○朝食、起床・就寝時刻など、基本的な生活習慣は概ね良好である。 ○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。 ○難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している。 ○友だちと話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞くことができる。 ○将来の夢や目標を持っている。 ○普段（月～金曜日）の家庭学習時間は全体的に増加傾向にある。 ○家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする。 ○家の手伝いをしている。 ○家で、自分で計画を立てて勉強する。 ○家で学校の宿題をしている。 ○学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めている。 ○学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。 ○地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。 ○学校の規則を守っている。 ○友達との約束を守っている。 ○人が困っているときは、進んで助けている。 ○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている。 ○人の役に立つ人間になりたいと思っている。 <p>【課題となる生徒の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●友達の前で自分の考えや意見を発表することがやや苦手である。 ●自分には良いところがあると思う生徒が減少した。 ●休日ともに家庭学習時間はあまり多くない。 ●普段（月～金曜日）、1日当たりのテレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする時間は個人差があるが少し長い。 ●普段の日のテレビ・ビデオ・DVDにかける時間は個人差があるが少し長い。 ●普段、読書をするのが少ない。 ●ニュース番組は、時々見ているが、新聞は読まない。
--

今回、4月に実施された学力調査、生活面に関する調査から本校3年生の長所や課題が見えてきました。ただ、これらの事は3年生に限った事でなく、他学年の生徒にも共通して見られる事もあります。

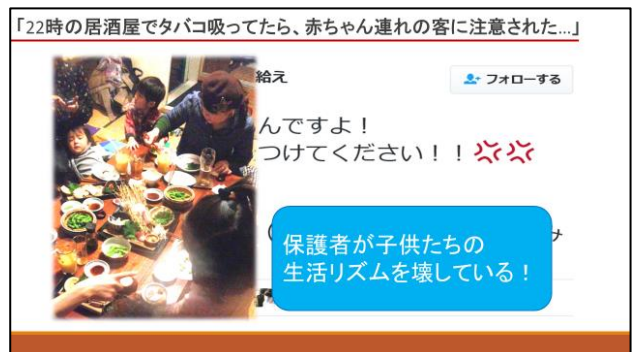
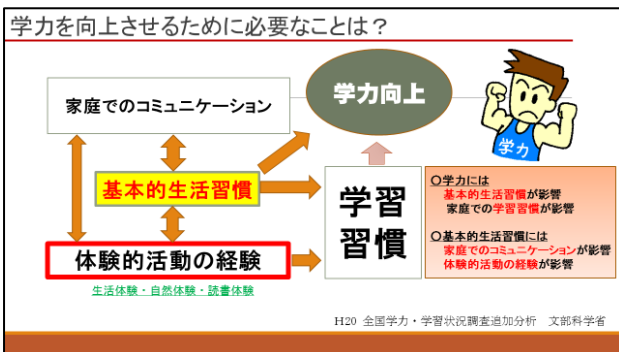
先日、16日（土）に行われました、南空知PTA連合会研究大会兼三笠市PTA連合会研究大会の「親学講座」では、学力向上のためには「基本的な生活習慣が影響する」「家庭での学習習慣が影響する」との調査結果を示し、子どもの基本的な生活習慣を身につけるには「家庭でのコミュニケーション」「体験的活動の経験」が重要というお話がありました。親が先回りせずに、子ども自身に成功体験・失敗体験をさせることが大切だと改めて考えさせられました。

これまで本校では、長所を伸ばして課題は改善の方向に向かうように教科指導、学級経営、生徒指導等を見直して参りました。これからも、引き続きご家庭との連携を図り、地域の皆様にもご協力いただきながら、生徒の「自立」をめざし教育活動に取り組んで参りたいと考えています。今後ともご協力を宜しくお願い致します。

親学講座

平成28年度南空知PTA連合会研究大会 兼 三笠市PTA連合会研究大会

横山副会長、渋木副会長、渋木さん、柳谷さん、研究大会の運営、ご参加ありがとうございました。いろいろ交流、楽しく準備&学び。良かったです。



最後に

親の背を見て子は育つ

子育てを楽しむ

「親学講座」で使用されたスライドの中から抜粋

【 講座の概要 】

- 学力を高めるためには、継続的に学習するだけではない。
- 基本的な生活習慣が定着していないと学習習慣は身に付かない。
- だらしない生活を送っている子どもは学力が向上しない。
- 体験的な活動を多く経験している子どもは学力が向上する傾向にある。

早寝早起き朝ごはん早寝早起き朝ごはん早寝早起き朝ごはん早寝早起き朝ごはん早寝早起き朝ごはん早寝早起き朝ごはん